先日、外国の記事を読んだ。要約すると次のような内容だった。

母親が、もうすぐ中学生になる娘に、チューブから絞り出した歯磨き粉を見せて「これを元に戻してみて」と言うと、娘は「できない！だって、元通りにはならないもの」と答えた。それを聞いて母親は「よく覚えておいて。私たちが発する『言葉』は、使い方によっては人の生死を脅かすほどパワーがあるものなの。中学生になるあなたが発する言葉は、これから重い意味を持つようになるわ。この歯磨き粉のように、一度口から出た言葉は、もう心の中に戻すことはできないのよ。だから、自分の言葉に十分気を付けなさい」と娘に話した、というものだ。

私も、自分の発した言葉で相手を傷つけてしまい、後悔をしたことが何度もある。どうして、あそこまで言ってしまったのだろう。どうして、あんな言葉を使ってしまったのだろう。そんなことを考え反省しても、後の祭だ。

相手を否定する言葉を発してしまつと、それは暴力にも似た威力を発揮する。そして相手の目に見えないところを攻撃する。反対に、相手を思いやり、いたわり、共感する言葉を持つ力も、同じように大きいものだ。そして、その力が

「言葉」の持つ力

働くのは相手にだけではない。優しい言葉を使えば、最初にその言葉を耳にするのは自分であり、知らず知らず、自分も優しさに包まれるのではないだろうか。また、その言葉で相手が笑顔になれば、つられて自分も笑顔になれる。そうやって目には見えない温かいものが広がっていくように思う。

この記事の母親は、最後にこう締めくくったそうだ。「どうか、言葉の使い方間違わず、誰かがあなたを必要としていたら、迷わず優しく接してあげて。あなたは、それができる人なのだから」と。そこには、我が子への心からの信頼と期待があふれていると感じた。母親のこのような言葉は、成長していく子どもにとって、きつと大きな後押しとなり、これから人生の支えになるだろう。

言葉には、大きな力がある。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎8800・6569